

- 調査目的 ◇義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
 ◇学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
 ◇そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

我が校の強み・弱み

【教科（国語・数学）に関する調査】

○**国語の強み**：「知識・技能」「思考・判断・表現」のいずれの観点も全国と県平均を上回った（資料1）。授業の中で漢字や語句の知識を得て、文章を流暢に書く時間を十分に取った。これらの強みは、作文や読書感想文において十分に発揮されていると考えられる。

○**国語の弱み**：複雑な文章や抽象的な内容に対する理解がやや苦手である。また、文法的な細かなミスが散見されることがあり、文章の構造を整える力を向上させる必要がある。

○**数学の強み**：どの領域に関しても全国と県平均を上回った。特に「図形」の領域はその差が大きい（資料2）。基礎的な知識・技能を身に付けており、類題に対応できていると考えられる。

○**数学の弱み**：記述式の問題で無回答の割合が大きかった。考え方を問ひ、説明させるなど、考え方を記述させる活動を多く取り入れていく。

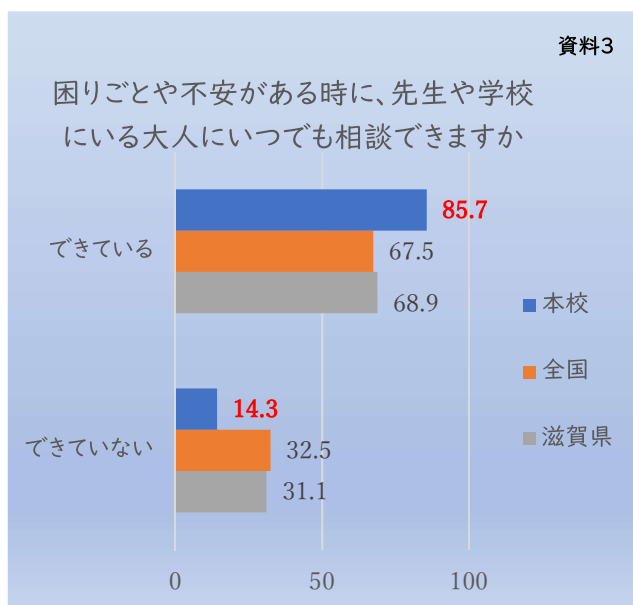
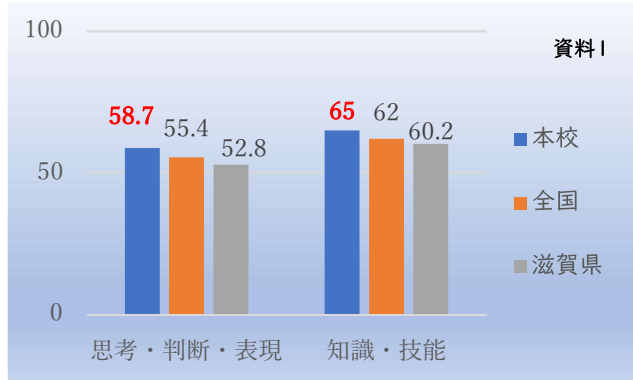
○2教科の共通点：

- ・生徒質問紙「学校以外に、普段1日あたりどれくらいの時間を勉強しますか」の項目で、全国や県よりもかなり高いことから、塾や家庭で知識を習得していることが分かる。
- ・図やグラフから読み解く力が弱いため、協働的な学びを通して、自分の考えと他者の考えを比較し、そこで考えを再構築し、深い学びにつなげられるような授業構想を考える必要がある。

【生徒質問紙調査】

○**強み**：「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」の質問には肯定的な回答が多く、全国と県に比べて高い数値となった（資料3）。休みの時間の生徒の見守りや、放課後の教育相談の時間を十分に確保することが結果につながっていると考えられる。

○**弱み**：「1,2年の時に受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか」の数値は全国と県に比べて低い数値である。特定の教師のみが使用しているのが現状であるため、教科間の研修を通して職員全員が使用し、指導力を高めていく。



【全国学力・学習状況調査をもとにした重点取組事項】

- ◇国語：週に一定量の読書を推奨し、読書感想文やディスカッションを通じて、読解力と批判的思考を育成する。また定期的に作文の練習を行い、指導教員によるフィードバックを受けることで、文章表現の向上を図る。
- ◇数学：基礎的、基本的な学習内容の定着を図り、数学的活動を通してより探究的な学習に力を入れ、考え方などを記述させる活動を多く取り入れられるよう指導を進めていく。
- ◇全体：生徒一人ひとりの資質・能力の育成に向けて、ICTを最大限に活用し、これまで以上に「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を進めていく。
 →特別支援教育の視点を重視した対応、ICT（iPad等）の活用、補充学習や個別指導の試みを大切にした指導